

## 2019年度入学式式辞



本日、和歌山大学に入学された983名の皆さん、入学おめでとうございます。そして大学院に入学・進学された231名の皆さん、入学・進学おめでとうございます。ご列席いただいております来賓の皆様と、副学長、学部長、事務局長、および教職員とともに皆さんの入学を心よりお祝い申し上げます。また、これまで新入生を支えてこられたご家族の皆様には、深く敬意を表しますとともに、衷心よりお祝い申し上げます。

入学生の皆さんは強い思いを抱いて、あるいは大きな試練、葛藤を乗り越えて、和歌山大学へ入学されてきたことと思います。和歌山大学はその意志、思いを受け止め、皆さんが自らの道を歩んで行くことができるように、応援いたします。

さて、皆さんは大学入試では正解を得るために努力をされてきたと考えますが、大学での学びは必ずしも正解が準備されているものだけではありません。今後、皆さんは正解の無い問題に立ち向かうことになります。そこで、最初に問います。「大学とは何か？」この問いの答えは単純ではありません。その問いを発している人、その問いを受けている人の意識と意図によって答えは変わります。その点を理解した上で、敢えて皆さんに問いたいと考えます。「大学とは何か？」この問いの答えを探す手がかりとして、現在の社会の状況、そして和歌山大学が新入学生の皆さんに何を期待するかを述べます。

現在、社会は激しく変化しています。私が和歌山大学に赴任した20年前には存在しなかったスマートフォンが普及し、SNSによる発言が世界を動かす時代になりました。さらに、AIの勃興により、人が人として為すべきことは何かを考え直さなければならない時代を迎えつつあります。移り変わる世の中の流れに自らの身を委ねてしまえば、変化の激流に飲み込まれ、自己を失ってしまうしかありません。大きな転換期にある現在、自己を保ち、社会で役割を果たして行くためには、変化に飲み込まれない自己を作り上げ、そして変化を楽しみ、チャレンジしていく姿勢を持つことが肝心です。

そのためには、文理を問わず広い分野を理解できる教養と、確かでありながらもその知識・技能を普遍化し活用できるしなやかな専門性を身に付けることが必要です。和歌山大学はこのような考えの下、卒業し学位を授与するために必要な資質、能力をディプロマポリシーとしてまとめています。

学部では、

1. 教養教育、専門教育を通じて生涯に渡って学習する能力を身につけ、市民・職業人として地域や国際社会の発展に寄与する力を備えている。
2. 獲得した知識や技術を社会で活用できる実践力を備えている。

としています。

一方、大学院では、

1. 各専門分野に通じ、時代と社会が求める高度な専門性と学際性を身に付けて行動する能力。
2. 幅広い見識と深い学識を基にした高度な分析能力や応用能力を持ち、他者と協調し平易かつ論理的に表現することができる能力。
3. 地域との関係を視野に入れながら自主的に学修して問題を解決することができる能力。
4. 専門知識を持つ者としての倫理観を備えるとともに、グローバルな視点を持ち、先見性、創造性を発揮して対応する能力。

としています。

和歌山大学には、教育学部、経済学部、システム工学部、そして観光学部の四つの学部があり、教育学研究科、経済学研究科、システム工学研究科、観光学研究科に加えて、教職大学院を擁しています。それぞれの学部、研究科は特徴的な教育システムを持ち、それぞれのディプロマポリシーを定めています。先程述べましたディプロマポリシーはこれらを包含し、さらに、統合するものです。各学部、研究科のポリシーだけを近視眼的に受け止めるのではなく、他の学部、研究科の学生や教員との語らいを通して、広く学んでほしいと考え、和歌山大学のポリシーは策定されました。



このようなポリシーを制定した理由を過去の文学に照らして考えます。「行く河のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。」これは鴨長明の方丈記の冒頭です。この言葉は、平家物語の冒頭と同じく、無常観、つまり、この世は常ならむことを表したものと理解されています。ここで語られるのは栄枯盛衰だけでなく、社会の変化であり、人の変化でもあります。日々同じように見える河も、水が流れ、一時として同じ状態にはない。別の見方をすれば、水が流れることで、河は淀みのない美しい姿を見せていると捉えることもできます。「世の中にある人とすみかと、またかくのごとし」とは、社会も人も常にその実態は変化していることを意味します。もっと意欲的に考えれば、我々がうつろいゆく社会の中で自己を確立するためには、変化を取り込み、変わることが必要であると考えても良いでしょう。

人が自らの心と体をつくるには、外からその元となる要素を取り込まなくてはなりません。体を作るために食事が必要なように、心と素養を創るには、学びが必要です。広い知的空間に身を置くためには、足場となる専門的な学びと空間認知能力としての教養が必要

です。変わっていく社会や学問への寛容さと好奇心を持ち続け、自らを変えていくこと、チャレンジすることを恐れない、皆さんにはそんな人になっていただきたいと考えます。

大学そのものも激動の社会にあって変わり続けることを求められています。本日、新入学生として皆さんを迎えることで、和歌山大学も新しい形となり、更に歩んで行くこととなります。和歌山大学の成長は皆さんの成長と共にあるのです。皆さんには大学に拠って立つのではなく、大学を共に創るという気概を持っていただきたいと考えます。

最後に皆さんに改めて問いたいと考えます。「大学とは何か?」、「和歌山大学とは何か?」これから始まる大学での学びの中で、皆さん一人一人がこの問いの答えを見出していきたい。大学を、あるいは大学院を卒業する時、それぞれがそれぞれの答えを見つけてくれることを期待いたしまして、私の式辞を締めくくります。

2019年4月5日

和歌山大学 第17代学長 伊東 千尋

